

自動養鶏設備 中国で販売強化

自動養鶏設備メーカーのハイテム（本社各務原市テクノプラザ2の10、安田勝彦社長、電話058・385・0505）は、中国での販売を強化する。現地は養鶏場の大型化と自動化が進んでおり、自動集卵による破卵率の低さや産卵率の高さなど性能面での優位性をアピールする。現在中国での年間売り上げは2億円ほどだが、10年後には30億円を目指す。

（岐阜・武居皇弥）

低い破卵率 害獣防御 性能面の高さアピール

ハイテム



安田勝彦社長

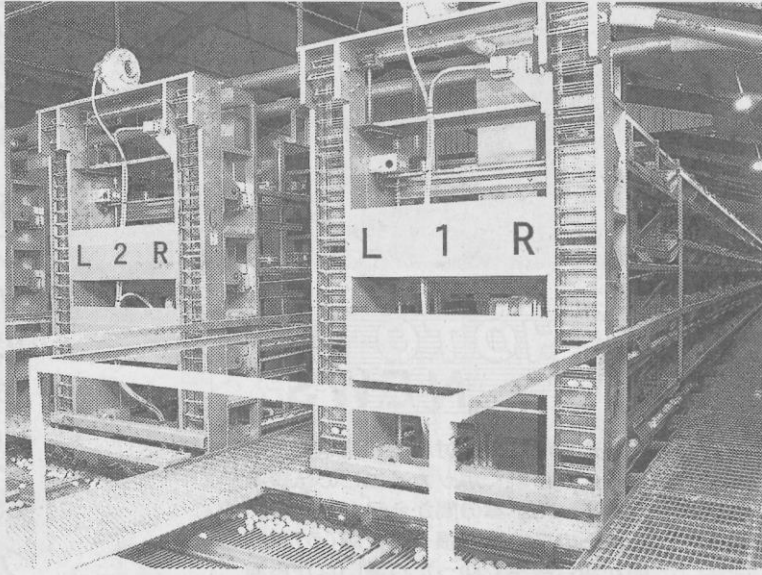
中国ではこれまでに、農業先進モデル企業を含む19農場に対し、約700万羽分の設備を納入した実績がある。中国市場は、欧州や

現地のメーカーが入り乱れ競争環境が激化している。その中で、養鶏先進国といわれる日本で蓄積した独自の技術による設備性能の高さを前面に打ち出す。ハイテムの自動養鶏設備は、2年前に開発したネズミなどの害獣侵入を防ぐシヤッターにより、エサの無駄を削減できるほか、耐久性に優れている。自動化による人件費削減も図れる。競合メーカーと比べ、20年間使用した場合、利益面で鶏1羽当たり3500円ほど有利になるという試算もある。

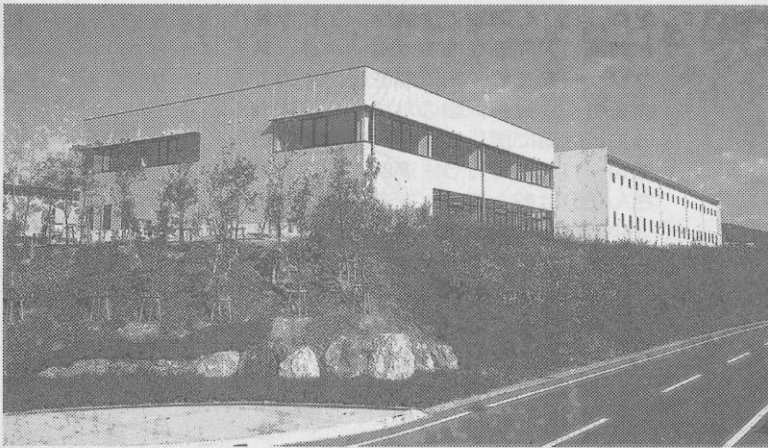
中国は、1人当たり年間卵消費量は約300個と需要は高い。効率よく卵を生産するために養鶏場では大型化と自動化が進んでおり、高性能の養鶏設備の引き合いが増えている。

一方、国内市場は、養鶏場が激減し、すでに自動化も浸透している。今後、市場拡大が見込めないことから、中国市場を深耕する。

安田社長は「養鶏場の大型化と自動化は中国でもさらに進んでいく。その際に当社製品を選んでもらえるように提案を強化していく」と話している。



ハイテムの自動養鶏設備



ハイテムの本社